

平成26年度卓越若手研究者集団の形成のためのプログラムにおける  
テニユアトラック講師・助教に係るテニユア付与の評価基準等について

平成26年8月1日  
京都工芸繊維大学テニユアトラック教員審査委員会

テニユア付与の標準的な評価基準等（目安）は、下記のとおりである。

記

**1. 評価対象**

- (1) テニユア審査における業績審査は、原則として、着任後の研究業績、教育活動、社会活動（学界活動を含む）を対象とする。また、大学運営上の業務実績についても加味する。
- (2) 研究業績は、工芸科学研究科の各学系各部門の定める研究水準によって評価し、テニユア審査の合格は、工芸科学研究科の准教授としての教員資格を顕著に満たしていることを目安とする。
- (3) 教育活動の評価は、講義、演習、実験・研究指導等、教育に関わる業務の活動実績に基づき評価する。
- (4) 社会活動の評価は、学界活動、大学広報活動等、地域・社会貢献、その他の社会活動に関わる業務の活動実績に基づき評価する。
- (5) 大学運営上の業務実績は、入試業務等の学部・大学院・大学の運営に関わる業務を協調して、支障なく行えたかどうかを評価する。

**2. 評価項目・評価方法等**

- (1) 研究業績について、着任後の業績に基づき4段階評価（A、B、C、D）を行う。

【評価項目】

- I. 論文・総説
  - A. 原著論文（査読審査付きであること。）
  - B. 総説・レビュー（査読審査付きであること。）
- II. 著書
- III. 作品、制作物等（※デザイン学部門、建築学部門に限る）
- IV. 特許
- V. 学会賞・表彰
- VI. 研究資金の獲得
- VII. 上記の項目に分類できない学術上の特記事項

【評価の観点】

- ・ I、II については、研究内容のレベル。
- ・ III、IV、V については、社会的評価のレベル。
- ・ VI、VII については、上記に加味する。

- (2) 教育活動について、4段階評価（A、B、C、D）を行う。

【評価項目】

- I. 研究指導の実績
- II. 講義等の実績（実験・実習・演習を含む。）

Ⅲ. 教育上のその他の実績

Ⅳ. FD 活動実績

【評価の観点】

Ⅰ. 教員としての適性

Ⅱ. 優れたティーチングを期待できるか。

Ⅲ. 卒研究生、院生の研究指導ができるか。

(3) 社会活動について、4段階評価（A、B、C、D）を行う。

【評価項目】

Ⅰ. 学界の活動実績（学会等での発表実績、研究委員会等での活動）

Ⅱ. 大学広報等の活動実績

Ⅲ. 地域・社会貢献の活動実績

Ⅳ. 上記以外の特筆すべき社会活動実績

【評価の観点】

・ 社会活動に能動的に関わって行けるポテンシャルがあるか。

(4) 大学運営業務実績について、4段階評価（A、B、C、D）を行う。

【評価項目】

Ⅰ. 入試業務等（学部、大学院）における実績

Ⅱ. 学系、部門における運営業務における実績

Ⅲ. その他特記事項

【評価の観点】

・ テニユア授与後必要な管理運営業務に関わって行けるポテンシャルがあるか。

### 3. 外部評価（ピアレビュー）

(1) 「研究業績外部評価書」を資料として4段階評価（A、B、C、D）を行う。

【評価の観点】

・ 代表的論文5件の全体的な質及び掲載された雑誌の分野における評価

・ 本人と同じ或いは関連する研究分野で本人と同程度の研究歴を有するリーダー的な研究者と比較した場合の評価

・ 上記以外の観点からの評価

### 4. テニユア付与の合格ライン

(1) 研究業績、教育活動、社会活動及び大学運営業務実績に係る各評価が、B 以上（4段階評価）であることをテニユア付与の条件とする。

(2) 詳細な審査基準については、採用面接時に説明する。

**4段階評価（A、B、C、D）**

**A**：非常に優れた成果をあげている。

**B**：優れた成果をあげている。

**C**：普通である。

**D**：見劣りする。